

平成30年度（2018年度）

学校関係者評価 報告書

学校法人 福岡保健学院
小倉リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人福岡保健学院 小倉リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

令和元年7月16日

学院長 篠崎 康次

学校評価実施責任者

副学院長 落合 裕之

<目次>

1 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

2) 学校関係者評価委員

3) 学校関係者評価委員会の開催

4) 学校関係者評価の実施

2 学校関係者評価の内容

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ 学校運営

項目Ⅲ 教育活動

項目Ⅳ 学修成果

項目Ⅴ 学生支援

項目Ⅵ 教育環境

項目Ⅶ 学生の受け入れ

項目Ⅷ 財務

項目Ⅸ 法令等の遵守

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

1 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

①関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することを通して、学校運営・教育活動を確し、その客観性・透明性を高めることを目的とする。

②学校関係者評価により明確となった学校運営・教育活動における課題の改善を図る。

③学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規則に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員（※敬称略、順不同）

委員氏名	所 属	選 出 区 分
土田 秀夫	小倉東高等学校	高校
岡田 和敏	西南女学院大学	該当分野の評価専門家
森 浩明	北九州市議会議員	地域住民
荒平 智子	株式会社 シダー	企業
柳田 健二	S T A N D U P	企業
池田 裕一	新行橋病院	卒業生

3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会 日 時 平成30年8月22日（水）15:00-17:00

場 所 小倉リハビリテーション学院 3番教室

第2回委員会 日 時 平成31年3月11日（月）15:00-17:00

場 所 小倉リハビリテーション学院 3番教室

4) 学校関係者評価方法

平成30年度の自己評価結果の内容を確認し、課題や改善が望まれる項目及びその解決策について、下記のポイントに留意しながら検討を行った。

① 自己評価の結果およびその内容は適切か否か

② 課題やその解決策は適切か否か

③ 学校の運営改善に向けた取り組みは適切か否か

④ その他、評価委員からの助言

2 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価とも、各項目の評価は下記に示す 4 段階の評定基準にて実施した。

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
 A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である。 (若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念や教育目標などはパンフレット、募集要項、ホームページ等に記載している。今年度はさらに玄関に教育理念を、廊下に教育目標を掲示し、学生などに周知を図った。AP, DP, CP などに関しては教員への周知は行っているものの、学生には伝えることができていない。

課題

臨床教育者との反省会などで、今後の学生教育に対する課題やご意見をいただくことがあるので、引き続き業界ニーズの把握に努め、教育内容の見直しをしていく必要がある。

改善の方策

学校の各種ポリシーを便覧へ記載し、学生への周知を図る。

■学校関係者評価： 適正

学校関係者評価委員会からの意見

教育理念・教育目的・人材育成像は、明確に定められており、適正である。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価： S

■コメント

教育理念の「共生」のもと、教育目標や人材育成像を定めている。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、

病院、実習設など）に周知されているか。

■自己評価： A

■コメント

パンフレットや募集要項等への記載、学内掲示に加え、新たに学校玄関に教育理念を掲示し、周知を図った。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価： A

■コメント

高度化する医療ニーズに対応すべく、臨床現場の情報収集に努めているが、今後も医療ニーズに対応できる人材育成のため、臨床現場と一層の連携を図っていく。

項目Ⅱ 学校運営

総括

学校運営に必要な委員会組織を整備し、各委員会は教育目標に基づいてそれぞれの目標設定を行い、計画立案を行っている。また、各委員会は会議を定期的（1回/週）に開催し、計画案の見直しなども図っている。

各委員会の議事録を回覧し全教員に周知するようにしている。学事システムを導入し、学生基本情報・出席状況・履修状況の管理を行っている。2019年度からは学事システムにより、学生自身がWEB上で履修状況を確認できるようにしている。

課題

決定事項を会議や議事録回覧により全職員への周知を図ってきたが、徹底できていない面がある。また、学生面談記録など学生に関わる情報共有についても、十分に学事システムの活用ができていない点が課題である。

改善の方策

重要事項は各会議だけではなく、朝礼の時間も活用して伝達していく。また、学生情報についても学事システムの活用を呼びかけていく。

■学校関係者評価： 適正

学校関係者評価委員会からの意見

今後 ICT 教育を進めていくにあたって、継続して情報リテラシーなどのシステム管理

を図ってもらいたい。

小項目 II-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント

各種委員会を設置して学内の組織整備を図っているが、目標設定に具体性に欠けるところがあつた。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：A

■コメント

委員会における役割がまだ明確に規定されていない箇所がある。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A

■コメント

学事システムによる学生への成績開示や授業情報の伝達等はできているが、その他、職員間の業務の効率化にはまだ課題が残っている。

項目III 教育活動

総括

学生による授業アンケート結果は、教員の教材研究等の成果で、概ね良好な結果が出ている。

国家試験対策は既卒生も含め、計画的に実施した。授業だけでなく、学生のコミュニケーション能力向上に向けて、1年次から新たに取り組み（1分間スピーチや実技試験時の動画撮影）を取り入れた。今後も継続をしながらコミュニケーションの苦手な学生への

対策を追加検討していく。教員の教育力向上に向けて、各種研修会への参加、学会発表なども積極的に勧めた。

課題

本校の学生の特徴として、理数系科目に対する理解度が低い状況にある。セミナー等の時間を活用した学習支援の取り組みを検討する必要がある。教員間評価も実施したが、

リフレクションカードなどの使用まで至らなかった。

改善の方策

学生の学習状況をしっかりと把握し、その改善に向けて学習支援体制を全体、個別に検討する。

ICT 教育導入により視覚的イメージを持たせながら興味をもって学習に取り組める工夫を行う。

■学校関係者評価：適正

学校関係者評価委員会からの意見

教員の実務経験についての記載を公表する準備をしたほうが良い。

学生のみからではなく、保護者の満足度も確認してはどうか。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント

担当者を中心に毎年シラバスや教科書の見直しを行っているが、今年度からは外部講師の意見も反映させながら実施した。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A

■コメント

教員だけでなく、臨床実習を行う関連病院のセラピスト等の有識者を含む教育課程編成委員会を開催し、より実践的なカリキュラム編成を行なっている。

実技試験においても、関連病院のセラピストに協力を依頼し、実践的な臨床場面の設定による試験を行なっている。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A

■コメント

全講義終了時に、学生による授業評価を行っている。教員間評価も実施している。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：S

■コメント

定期的な小テストの実施や個別の学習支援を行うなど、学習強化対策を行なっている。学生の満足度も高い状況にある。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：A

■コメント

福岡保健学院が開催する外部講師招聘による研修会に、全教員が参加して研鑽するとともに、学会、大学等が開催する研修会・発表会等に教員が積極的に参加できる体制を作り上げている。

項目IV 学修成果

総括

最終目標の国家試験に向けて、学習支援体制を整え対応した。合格率は全国平均以上であったが、100%は達成できなかった。また、就職に関しては、これまで就職率 100%を達成しており、「年度内 100%内定」を目標に支援を行ったが、年度内は 97%だった。その後 100%を達成している。学生の国家試験、就職試験に対する真剣さ・緊迫感を早いうちから持たせる工夫が必要である。

問題を抱える学生の早期発見。早期対応により、退学率の低減は行えているが、退学者はゼロにはなっていない。

課題

就職に対する意識付けを早めに行うなどの指導の改善が必要である。

国家試験対策も意識付けとともに、問題の傾向に応じた対応をしていく必要がある。

今後も退学者を減少させるための対策が必要である。

改善の方策

国家試験に向けて 3 年間の計画を立案する。

学習意欲の低下を防ぐために、職業イメージを維持させるような取り組みを工夫する。

■学校関係者評価：適正

学校関係者評価委員会からの意見

国家試験対策は、1 年次の取り組みから工夫をしていく必要がある。

個々の退学理由を分析して、対策を取る必要がある。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：A

■コメント

求人情報を随時廊下に張り出す、図書室で検索できるようにするなどの学生支援を行なってきたが、目標達成には至らなかった。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：A

■コメント

国家試験合格率は、両学科 100%を目標に取り組んできたが、両学科とも目標達成に至らなかった。今後は、1・2 年次からの取り組みの見直しを行っていく。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：A

■コメント

退学率は低減している。担任・学年主任を中心に学生面談を頻繁に行い、学習面・生活面での支援を行なっている。退学理由を基に事例研究等を行い、学生指導に役立てる。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：B

■コメント

学院に募集のあるボランティア活動については把握できているが、学生自身が自主的に行っているボランティア活動の把握までには至っていない。

項目V 学生支援

総括

授業等の学生支援に関しては概ねできていると考えている。しかしながら、これに満

足せず、各学年でアンケート調査をしながら、学習環境の整備に努めていきたい。就職活動支援に関しては合同就職説明会だけでなく、学院単独の就職説明会を催し、地域を広げて求人を積極的に行っている。

課題

退学者ゼロや国家試験合格率 100%を目標に、1 年次から学生の状況に応じた早期学習支援体制を作り上げていく必要がある。

改善の方策

早い段階から学習状況の把握に努め、指導方法や指導内容について、検討を行う指導体制を築く。

学校関係者評価： 適正

学校関係者評価委員会からの意見

スクールカウンセラーを利用する学生に対して学習環境の工夫を継続的に行っていく必要がある。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

進路・就職支援に対し、各学年で積極的に指導しているが、開始時期が遅く、1 年次から意識させる必要がある。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

学生相談は担任・副担任制を敷いており、学生情報がタイムリーに入る体制を組んでいる。スクールカウンセラーも週 1 回は来ていただいております。教員には相談しにくいような内容の時に教務を通さなくても相談できる体制を整えている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価： A

■コメント

学生の出席状況や生活態度等に問題がある場合は、こまめに保護者に連絡をし、保護者と情報共有を行うなどの連携を図っている。

入学前や実習前には必ず保護者説明会を実施し、詳しく内容説明を行なっている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われてい

るか。

■自己評価： A

■コメント

地域の学校との連携を取り、地域の学生を招いての理学療法体験や作業療法体験を行なうとともに、学校からの要請により職員を派遣し、理学療法、作業療法の観点から、運動指導も行なっている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価： A

■コメント

修学支援体制について、夜間部に関しては学院独自の修学支援システムを組んでおり、経済的に困窮する学生に対し支援を行っている。

全学科・コースに特待生制度を設けて、学費の減免も行っている。災害発生に関し支援する体制も整えている。

令和 2 年度から始まる高等教育の修学支援制度にも認定を受けるべく申請している。

項目 VI 教育環境**総括**

ロッカーが古くなったため、新しくロッカーを整備し直し、一緒に休憩室の環境整備も行なった。しかし、休憩スペースの面においては、ロッカーが大きくなった分、十分とは言えない課題が残った。図書の購入については、図書室の充実に向けて毎年計画的に必要なものを購入している。実習施設との連携に関しては定期的に行っている。

ICT 教育に向けて、全館 Wi-Fi 整備を行なった。

課題

ロッカー室や休憩室は明るくよい環境になったが、以前より狭くなり、1 階ロビーで、学生達が休憩したり談話したりするために椅子・机も準備したが、まだ不十分さは残っている。

防災訓練が年度末実施予定となった。年間計画に取り入れる必要がある。

改善の方策

学生が必要とする図書の購入は今後も続けていく。学内環境の整備については、物理的に難しい点もあるが、引き続き環境整備に向けて努力していく。

学校関係者評価委員会からの意見

防災訓練をこまめに行なっていくことは現実的に厳しいため、時期は年度初めに行な

って意識付けをする方がよいと思われる。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

図書室の開放、ロビーの椅子・机を新たなものにし、利用しやすく居心地の良い環境整備を実施した。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

実習支援セミナーを実施するとともに、実習施設・指導者との密な連絡を図っている。実習前後には会議を開催して情報交換を行うなど、十分な指導体制を敷いている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 要検討

■コメント

防災設備の点検整備は適切に行われているが、防災マニュアルの整備と職員への周知徹底はまだ十分とは言えない。

項目 VII 学生の受け入れ、募集

総括

高校とは教員による学校訪問やガイダンス等により、良い関係を構築している。高校の進路指導部からの相談もよくあり、また、志望理由書・小論文指導・面接指導の依頼もあり、本校職員が高校に出向いて指導を行なっている。

課題

高校生が求める情報については、学院案内やガイダンスだけではなく、ホームページからも簡単に閲覧できるようにする必要がある。

改善の方策

パンフレットやホームページに掲載する、今年度の学校情報を急いで準備する。そして、4月からのホームページリニューアルに伴い、ホームページからも検索できるようにしていく。

学校関係者評価委員会からの意見

ホームページの記載項目に関して、数点わかりにくい点があるため改善が必要である。また、地域への認知が不十分と感じることもあるため、今後も継続して対外的なPRを行っていったほうがよい。

高校への部活動支援も積極的に行い、連携を図るとよい。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

今年度は前年よりガイダンスの回数を増やし、高校に出向くことで高校生に直接説明できるようにした。また、職員による学校訪問も回数よりも、必要に応じて適宜訪問するようにした結果、回数も自然と増え、高校との情報交換はうまく図られている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

パンフレットやホームページで公表している。

項目 VIII 財務

総括

少子化等により、以前より学生が減少し、それに伴い収益も減少していたが、積極的な学生募集の取り組みにより状況が改善され、経営状況は回復してきている。

課題

館内老朽化に伴う学内修理や教材購入が定期的に必要となっていく。

改善の方策

次年度は、決算等の財務状況を全体会議で報告し、全職員にも理解できるよう試みる。経費節減を行いつつ優先順位を踏まえた購入計画を立てていく。

学校関係者評価委員会からの意見

特に問題なし。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

入学生の増加により、経営状態は安定している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

予算・収支計画に基づいて管理している。今後も経費節減を行いつつ、老朽化のための館内修理、学生満足度が向上するように学内美化を行う予定である。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価： S ■学校関係者評価： 適正

■コメント

年に3回定期的に行っている。

項目IX 法令等の遵守

総括

学則を変更する際には会議を通して、職員全体で確認している。また、法人全体で就業規則変更等の場合は情報を共有しつつ、届出を行なっている。

個人情報の取扱について教員相互で注意をしており、学生についても機会あるごとに注意を行なっている。

職員のマイナンバーの取り扱いについては、取扱職員を決め、厳重に対応している。

課題

SNSの取り扱いなど、今後も情報リテラシーに関する注意喚起を行っていく必要がある。

改善の方策

次年度からICT教育の導入となるため、1年次から情報リテラシーに関する指導を行なう。

学校関係者評価委員会からの意見

学院長を中心として適切に管理されている。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価： S ■学校関係者評価： 適正

■コメント

法令や設置基準を遵守している。今後もその姿勢に変わりはない。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価： S

■学校関係者評価： 適正

■コメント

個人情報の管理に関する学生・職員教育を今後も継続していく。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

地域住民の方が一番参加しやすい学院祭の広報を積極的に行ない、地域住民の方によりハビリテーションや学生の活動について、理解を広めた。特に、中学、高校の吹奏楽部を招いての演奏、市民センターとの交流など好評だった。これまで以上に周辺地域に学院を開放できたと考えている。

他には、近隣の中学校、高等学校に職員を派遣して部活動支援を行ない、また、学生組織の学友会を中心に、学院から最寄りJR駅周辺までの清掃活動を年に2回実施した。

課題

学院とは関係のない個人による社会貢献には個人差がある。昨年、北九州市より表彰された学生もいる。ボランティア活動に興味を持つ学生もいるので、ボランティア活動の案内掲示だけではなく、積極的なアナウンスが必要である。

改善の方策

ホームルーム等の機会を利用して、ボランティア活動のアナウンスをしていく。

学校関係者評価委員会からの意見

地域の高齢者や障がい者との交流の場を増やしてはどうか。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価： A ■学校関係者評価： 適正

■コメント

今後も地域や地域の中学・高校との交流を積極的に行い、学校の設備や資源を活用して社会貢献、地域貢献を行なっていく。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

ボランティアの窓口となる教員を通して、案内の掲示やクラスへの広報を積極的に行ない、参加の呼びかけを強化していく。